

土地のきまりの変化と天平文化

今日の問い

奈良時代の中ごろ、土地のきまりはどう変わり、どんな文化が栄えたのだろう。

左の問いに答えるつもりで、右のノートの下線に語句を書こう。最後に「まとめ」で今日の問いに答えよう。

問い・キーワード

ノート 下線に語句を書こう

1 土地のきまりはどう変わったか。

人口が増える → 口分田の不足

口分田が不足 → 743年¹ 墾田永年私財法 で開墾地の私有を認める → 貴族や
寺社の私有地が広がる(のちの² 荘園)

2 どんな文化が栄えたか。

仏教・遣唐使・天平

³ 聖武天皇 は仏教の力で国を守ろうとし、国ごとに⁴ 国分寺、都に東大寺と
大仏をつくらせた。唐の僧⁵ 鑑真 は正しい仏教を伝えた。唐の影響を受けた国際色
ゆたかなこの時代の文化を⁶ 天平文化 といい、防人や農民の歌も集めた歌集
⁷ 万葉集 もつくられた。

年表 — この単元のできごと

712

古事記ができる

720

日本書紀ができる

723

三世一身法

743

墾田永年私財法

752

東大寺の大仏が完成

754

鑑真が平城京に着く

まとめ

今日の問いに答えよう。「墾田永年私財法」「仏教」の2語を使って、2文で書きなさい。

(例)口分田が足りなくなり、墾田永年私財法で開墾した土地の私有が認められて、貴族や寺社の私有地が広がった。聖武
天皇は仏教の力で国を守ろうとし、唐の影響を受けた天平文化が栄えた。

☐ 口分田が足りなくなった理由がわかる ☐ 聖武天皇が大仏をつくらせたわけを言える☐ 天平文化の作品を3つ言えるできた / 7